

P 8 0～8 2の変形性膝関節症の発生原因のひとつとして大腿四頭筋の伸縮障害（筋膜が縮んだまま）としていますが、大腿四頭筋のうち大腿直筋のみの伸縮障害（筋膜が縮んだまま）です。

大腿直筋の治療ポイントは、股から膝の長さの4分の1股から下に下がった大腿直筋上の部分です。

P 1 7 0の図B-27で右寛骨が①の方向に歪む原因は、右内腹斜筋と右外腹斜筋の両方の筋肉の筋膜が伸びたままの伸縮障害になることが原因です。

片方だけでは①方向に歪みません。

図B-27で右寛骨が②の方向に歪む原因は、右内腹斜筋あるいは右外腹斜筋のどちらか片方でも筋膜が縮んだままの伸縮障害の状態になれば歪みます。

内腹斜筋の治療ポイントは、臍から二横指下そこから二横指横の部分です。

外腹斜筋の治療ポイントは、臍から二横指上そこから二横指横の部分です。

P 1 7 2の図B-29のように骨盤が左に回旋する原因は、左腹横筋の筋膜が伸びたままの伸縮障害の状態になることです。また、右腹横筋の筋膜が縮んだままの伸縮障害の状態になっても骨盤は左に回旋します。これは本書のものと逆になっていますのでご注意ください。多裂筋の伸縮障害の関係で本書記載のデータになったと考えられます。

腹横筋の治療ポイントは臍から四横指横の部分です。